



第3回移民政策研究会

6月9日（火）霞が関日比谷中日ビルのシーボニアメンズクラブで開催。冒頭、6月1日に開催されたJCIE日本国際交流センター（大河原昭夫理事長）主催「アジアにおける人の移動」国際シンポジウムでの議論を振り返りスタート。シンポジウムには、国会議員、市長、政府、企業、経済団体（経団連）、学者、NGOなど多様な分野の代表が参加。



同シンポジウムには当会からも、國松座長、磯山友幸氏、主催者側の毛受氏、李恵珍氏が参加。日本としての外国人の受け入れはセンシティブなテーマだが、このテーマについてこれだけ多分野の方々が集まり、本格的な議論を行ったのは初めてではないか、と主催者の毛受氏。消滅危惧地域など、国内でも外国人居住者への関心が高まりつつある現状を確認。シンポジウム後半のモデレーターを務められた磯山友幸氏の現代ビジネスへの寄稿 <http://goo.gl/USGAW6> をご参照。

本会では後半、國松孝次座長の在スイス大使時代の同国の政策などを事例に、多角的な意見交換を行った。メンバーからは移民庁など統括機関が不可欠との意見。國松氏は労働力不足の観点からの議論だけでなく、文化的な側面からの議論も必要とのご意見。

（麻植 茂記）

